

J R 嵯峨嵐山駅の自由通路と橋上駅舎のデザイン及び駅周辺施設の整備について

京都市では、現在、地域が駅により南北に分断されている J R 嵯峨嵐山駅において、駅南北地域の往来を可能にし、駅利用者の利便性向上を図るため、自由通路の新設と駅舎の橋上化、駅周辺の広場、道路等の整備に取り組んでいます。

この度、自由通路及び橋上駅舎のデザインが決まり、平成 20 年度の完成に向けて着々と進めてきた工事についても、今月 25 日に駅舎機能を仮駅舎に移転して、4 月から既存駅舎を撤去し、自由通路、橋上駅舎の建設工事を開始しますので、お知らせします。

また、京都市が取り組んでいる駅の北側から丸太町通に通じる都市計画道路の新設や駅の北側・南側の広場や駐輪場の整備の概要について併せてお知らせします。

1 事業概要

(1) 自由通路

- ア 事業主体 京都市
- イ 施設概要 延長 85メートル、幅員 5メートル
エスカレーター 2基、エレベーター 2基
- ウ 工事費 798百万円
費用負担 京都市 798百万円(国庫補助1/2)

(2) 橋上駅舎

- ア 事業主体 J R 西日本
- イ 施設概要 床面積930平方メートル
エスカレーター 2基、エレベーター 2基、トイレ 1箇所
- ウ 工事費 1,061百万円
費用負担 京都市 901百万円(京都府補助1/3)
J R 西日本 160百万円

* エスカレーター、エレベーター、トイレはバリアフリー設備

(3) 自由通路及び橋上駅舎のデザイン

ア コンセプト

「歴史と自然あふれる嵯峨野の風景となる駅」

イ 特徴

JR嵯峨嵐山駅周辺は、日本有数の観光地であり、自然に囲まれた中に昔ながらの建築物が建ち並ぶという風景が特徴です。新たな嵯峨嵐山駅がこの「風景」のひとつとなるよう、地域にふさわしいデザインとした。

具体的には、天龍寺、大覚寺などの歴史と伝統ある寺社建築の象徴である切妻屋根を正面に配し、白壁や格子、木組み(柱)を割り付けるなど、「和」を基調とした建物としている。

(4) 都市計画道路 国鉄嵯峨駅北通

ア 事業主体 京都市

イ 延長 143メートル、幅員 11メートル(車道2車線、片側歩道)

(5) 駅北側広場

ア 事業主体 京都市

イ 面積 約2,100平方メートル

(6) 駐輪場

ア 事業主体 京都市

イ 構造 鉄骨造3階建て

(7) 駅南側広場

ア 事業主体 JR西日本

イ 面積 約2,500平方メートル

2 工事日程

平成18年12月	仮駅舎等の工事に着手
平成19年3月25日	駅舎機能を仮駅舎に移転
平成19年4月から	既存駅舎の撤去、自由通路及び橋上駅舎の建設工事開始
平成19年度中	南北駅前広場、駅北側駐輪場、都市計画道路の工事着手
平成20年度中	完成

J R 嵯峨嵐山駅 自由通路・橋上
完成予想



J R 嵯峨嵐山駅 自由通路・橋上化

完成予想図（南側）

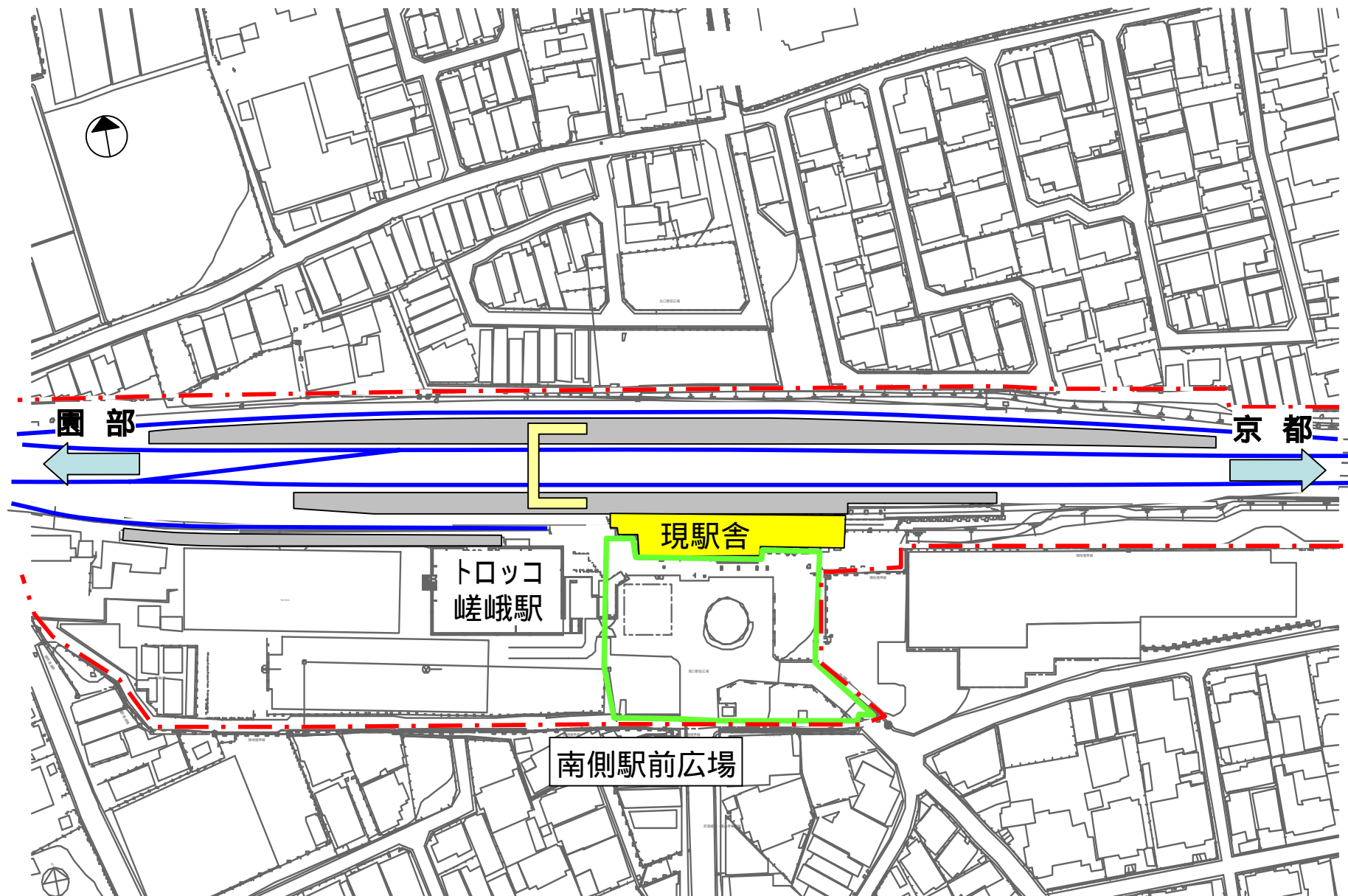


J R 嵯峨嵐山駅 自由通路・橋上化

完成予想図（北側）



嵯峨嵐山駅 平面図(現在)



嵯峨嵐山駅 平面計画図

